

地産地消ウィーク
ごはん わかめ汁
豚肉と麴の野菜あえ
コーンあえ

ほぼ日刊 C^カa^ラr^ッa^ト

第738号

神町中学校 夢色通信社
令和2年10月16日



山形新聞 少年少女の声（10月14日より）

「違う」と言う必要さ学ぶ 3年 伊藤 蒼空

先日、私たち神町中3年生は、オンラインで平和学習を行った。この学習では、沖縄戦遺骨収集ボランティアの具志堅隆松さんに、自らの体験を話していただいた。具志堅さんは35年以上遺骨収集ボランティアを続けていて、実際に戦争にたずさわっている方からのお話はとても貴重なものだった。

戦争当時、多くの方は赤紙1枚で戦争に召集された。それなのに、亡くなってしまうと、名簿がないのでわからない、といって終わっていたそうだ。具志堅さんは、これはあまりにも無責任だと感じ、「その家族にせめて遺骨を返してあげたい」という思いで、国に訴えた。私はその行動から、本気で人を思うということを学んだ。また、具志堅さんは遺骨収集を行ってき気付いた、大事なことを教えてくださった。それは「人を殺すことは間違っている」「人に殺されるのは間違っている」「自分で自分を殺すのは間違っている」という3つのことだった。死は誰にでも訪れるが、殺されることとは違い、「死を受けいられるように、一生懸命生きることが大事だ」ともおっしゃっていた。また、これらを「いじめ」にあてはめて説明してくれた。

私たちは今、自由に物を言える時代に生きている。だから、間違っていると思ったことは、はっきり「違う」と言うことが必要だと学んだ。

平和への考え 深めたい 3年 加藤 瑚雪

9月11日、私は沖縄で遺骨収集ボランティアをしている具志堅隆松さんの話を学校でお聞きしました。遺骨収集ボランティアとは、沖縄戦で亡くなった方の遺骨をDNA鑑定し、家族の元へ届けるという活動です。ボランティアの活動を聞く中で、心に残った言葉は「死は平等に訪れる」というものです。誰にでも死は平等に訪れるからこそ、一生懸命人は生きられる。「死」があるからこそ私たちは今日生きているんだと実感させられました。

また、「殺される」のは「死」とは違い不平等で不条理なことだと、死ぬこと生きることの重みも感じました。人を殺すことも、人に殺されることも、自分で自分を殺すことも間違っている。平和のためには、他人を受け入れ、互いに協力し合って生きていかなければならないことを学びました。

みなさんは、平和になるためには何が必要だと思いますか。他人を受け入れる、協力し合う。他にもたくさんのことがあると思います。私は助けを求める人を救うボランティアに参加し、平和について考えを深めていきたいです。

